

プーチン：米対外政策がテロリズムを拡大させた

【訳者注】末尾の読者のコメントに、「(米対外政策がテロリズムを拡大させた)のではないだろう、米対外政策がテロリズムだろう」と言っているものがある。確かに！ そちらが正しいだろう。

By Deutsche Wirtschafts Nachrichten (ドイツ経済ニュース)

May 31, 2015

(ロシア大統領プーチンは、アメリカの対外政策の問題になると、いつもと違う激しい言葉を使う。彼は、アメリカの対外政策によってできた安全保障の穴をふさぐために、中国や BRICS 諸国との連盟を求めている。中東への西側の不法な介入が、強い“イスラム国”をつくり出した。BRICS 諸国は共同して、このような展開に対し自衛すべきである。——RI)

ロシアの大統領プーチンは、西側の対外政策に対し、より厳しい態度を示しており、彼は“イスラム国”の台頭の責任は西側にあると、かなり無遠慮に非難している。タス通信よれば、彼は BRICS 安全保障主任会議の席で、月曜日、こう言った——「我々は現在、中東と北アフリカで何が起きているかを知っている。我々は、“イスラム国”と自称するテロリスト組織の起こしている諸々の問題を見ている。しかし、これらの国々には、国連安保理の承認もなしに外部から不法な干渉がなされる前には、テロリズムなど存在しなかった。その結果どういうことになったかは見た通りだ。過去 2 年間に国際的な争いの場で起こったすべては、是正されなければならない。」プーチンは、他の国家も、西側の取り続ける攻撃的な政策によって脅かされていると考えている——「我々の国家が脅かされていることは明らかで、これは明らかに、国際法が、よその国とその影響圏の主権侵犯という形で、犯されていることによるものだ。」

中国の代表との会合で、プーチンは“色の革命”という現存する脅威について、招いた客たちと論じた。一つはウクライナで起こり、マイダンの擾乱の結果、ヤヌコヴィッチ大統領が追放された背後にはアメリカがいる、とモスクワは考えている。また西側の観察者の間では、アメリカが背後で糸を引いているのは周知の事実になっている。

最近になってやっと、ある極秘のペンタゴンの報告が漏れて、IS を創ったのはアメリカ政府である可能性が明らかになった。しかし政府が彼らを阻止する策を取らなかったのは、ム

スリムたちとの間の紛争は、米政府の地政学的戦略の方向に沿うものだからである。

プーチンが、中東におけるアメリカの対外政策から、“イスラム国”の地理的な勢力拡大が起ったと考えていることは明らかである。プーチンはこれまで、中東危機における危機の考えられる原因を説明するのに、これほど激しい言葉を使ったことはない。

プーチンは、さらに大きなプレッシャーを西側にかけているように思える。シリアの分断化されたグループと戦う連盟軍は、思うように成果をあげていない。そこでついに、デイヴィド・キャメロンが、シリアの危機解決に協力してくれるようプーチンに求めた。アサドを支援しているプーチンは、その行動の代価が高くつくことになるだろう、と。“イスラム国”の台頭について、プーチンが西側に対して用いた厳しい言葉は、中東のゲームの方向を占うものかもしれない。そしてそれは、弱い者の立場にはならないだろう。

(この記事は最初、[Deutsche Wirtschafts Nachrichten](http://deutsche-wirtschafts-nachrichten.de/2015/05/27/putin-us-politik-hat-zu-ausbreitung-des-terrors-in-der-welt-gefuehrt/) に発表された。翻訳は RI (Russian Insider) のため Mihajlo Doknic による。

<http://deutsche-wirtschafts-nachrichten.de/2015/05/27/putin-us-politik-hat-zu-ausbreitung-des-terrors-in-der-welt-gefuehrt/>)